新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間： 令和2年7月6日（月） ～ 令和2年7月12日（日）

	指標	数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	54人	41人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数 / (153万人 / 10万人))	3.53人	2.68人	0.5人未満 ^{※1}
(3)	週当たりの陽性増加比 (当該週の陽性者数 / 前週の陽性者数)	1.32	8.20	<1 ^{※1}
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数 / 陽性者数)	61%	49%	50%未満 ^{※2}
(5)	市内医療機関における入院中の患者数 ^{※3} (7月14日公表分から疑似症患者を含む)	50人	46人	—
(6)	直近1週間の陽性率 ^{※4} (陽性者数 / 検査実施人数)	4.21%	5.45%	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

- ※1 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用
- ※2 神奈川警戒アラート発動基準を準用
(アラート発動基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)
- ※3 7月12日(日)現在の入院者数（前週分は、7月5日(日)現在の入院者数）
- ※4 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

2 評価

7月6日（月）から7月12日（日）の市内における新規陽性者数は、54人（前々週5人、前週41人）と首都圏各地区と同様に増加している状況にあります。

他の数値も前週を上回るものが多く、指標となる「目安基準」を上回っています。

週当たりの陽性者増加比の数値は前週を下回り、増加の割合は前週ほどではないと考えられますが、目安基準を上回っています。直近1週間の陽性率は低下しています。これは検査を受ける人数が増加しているものの、多くは陰性者であったといえます。

市内医療機関における入院中の患者数も若干増加しています。川崎市内においては新型コロナウイルス感染に対する医療はもちろん、一般の医療を圧迫するほどの感染者数の増加ではありませんが、これから増加するかもしれないことに備えていく必要はあります。

市民の皆様におかれましては、これまでの注意（三密をできるだけ避けるなど）は続けつつ、日常の生活を過ごしていただければと思います。ただ、体調不良時の出勤や外出はできるだけ避けていただきたく、また患者発生数が明らかに多いことが判明しているような所では、感染対策が取られているところを除いては出入りを控えて頂いた方がよろしいかと思えます。またどちらかに出かける時も、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、ゆっくりと過ごされることをお勧めします。

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和2年7月13日（月）～令和2年7月19日（日）

指標	数値	前週	目安基準
(1) 直近1週間の新規陽性者数	63人	54人	—
(2) 直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	4.12人	3.53人	2.5人未満 ^{※1}
(3) 週当たりの陽性増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	1.17	1.32	<1 ^{※2}
(4) 直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	70%	61%	50%未満 ^{※3}
(5) 市内医療機関における入院中の患者数 ^{※4}	48人	50人	—
(6) 直近1週間の陽性率 ^{※5} (陽性者数/検査実施人数)	4.16%	4.21%	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

- ※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用
- ※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用
- ※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)
- ※4 7月19日（日）現在の入院者数（前週分は、7月12日（日）現在の入院者数）
- ※5 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

2 評価

7月13日（月）～7月19日（日）の市内における新規陽性者数は、63人（前々々週5人、前々週41人、前週54人）と、急速な増加はとどまっていますが、微増傾向が続いています。他の数値も前週を上回るものが多く、指標となる「目安基準」を上回っています。

市内医療機関における現在入院中の患者のほとんどは軽症ですが、全体数が増えれば入院数は増え、重症者数も増加してしまいます。現在のところ、川崎市内においては新型コロナウイルス感染症に対する医療も、一般の医療も落ち着いて行われていますが、できるだけ感染者数が増えないようにすること、また増えるかもしれないことに対して引き続き備えていく必要があります。

市民の皆様におかれましては、これまでの注意（三密をできるだけ避けるなど）は続けつつ、日常の生活を過ごしていただければと思います。ただ、体調不良時の出勤や外出はできるだけ避けていただきたく、また患者発生数が明らかに多いことが判明しているような所では、感染対策が取られているところを除いては出入りを控えて頂いた方がよろしいかと思えます。また、これから連休がありますが、出かける時には、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされることをお勧めします。

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和2年7月20日（月）～令和2年7月26日（日）

	指標	数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	65人	63人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	4.25人	4.12人	2.5人未満 ^{※1}
(3)	週当たりの陽性増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	1.03	1.17	<1 ^{※2}
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	62%	70%	50%未満 ^{※3}
(5)	市内医療機関における入院中の患者数 ^{※4}	55人	48人	—
(6)	直近1週間の陽性率 ^{※5} (陽性者数/検査実施人数)	5.38%	4.16%	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

- ※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用
- ※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用
- ※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)
- ※4 7月26日（日）現在の入院者数（前週分は、7月19日（日）現在の入院者数）
- ※5 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

2 評価

7月20日（月）～7月26日（日）の市内における新規陽性者数は、65人（前々々週41人、前々週54人、前週63人）と、急速な増加はとどまっていますが、依然として微増傾向が続いています。週当たりの陽性者増加比は、1.17から1.03と低くなっていますが、その他の指標を含めていずれも「目安基準」を上回っているため、アラート状態ではありませんが注意が必要です。

また、現在のところは、川崎市においては新型コロナウイルス感染症に対する医療も、一般の医療も落ち着いて行われていますが、できるだけ感染者数が増えないようにすること、また増えるかもしれないことに対しては、引き続き備えていく必要があります。

これまでのところ、一般の方の感染の多くは、広い空間や街の中などではなく、空気の流れの悪い、狭いところで多人数が一緒になって、大声で会話をしたり（歌ったり）、接触をしたりという状況で生じています。つまり、**感染の多くは、「三密の状態」で生じています。**できるだけこのような状況を避けることは、感染するリスク、感染を拡げるリスクを下げることになるので、これらの注意をしながら、日常の生活を過ごしていただければと思います。またどちらかにお出かけになるときは、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされることをお勧めします。

新型コロナウイルス感染症に関する市長要望について

1 趣旨

今春以降、中国の武漢市が発祥とされる新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、県下においても4月7日から5月25日までの間、緊急事態宣言が発出されるなど、市民の生活や経済活動等に多大なる影響をもたらしました。

緊急事態宣言の解除後、国内全体が自粛ムードから緩和に向けて大きく動きましたが、ひと月余りで感染者数が再び増加に転じ、7月下旬の時点では、感染再拡大の状況は日を追うごとに深刻化しております。

各施設におきましては、拡大を続ける感染への備えを早急に整える必要がございますが、介護事業者の取組だけでこれを行うことは極めて困難です。

そこで、川崎市老人福祉施設事業協会として市長要望を行うことについて、現在実施中の第97回理事会（文書審議）にお諮りし、御審議いただいております。

2 要望の骨子

「新型コロナウイルス感染症に関する要望書」（未定稿）では、次の4項目を要望項目としております。

- (1) 施設入居者及び職員がPCR検査又は抗原検査を優先的に受けることができる体制を整備すること。
- (2) 施設に入居する際の条件として、全員をPCR検査等の対象とするなど、効果的な水際対策の仕組みを早急に構築すること。
- (3) 施設利用者や職員に感染の疑いの事例が発生した際の具体的な業務フロー（PCR検査等の実施、感染が確認された入居者の病院への速やかな移送、人員補充の仕組み・応援体制など）の整備とマニュアル作成に助力すること。
- (4) 川崎市が進めていると伺っている「一定量の衛生用品を備蓄し、感染者が発生した施設に対して優先供給する仕組みの構築」を一日も早く具体化すること。

この未定稿に理事の皆様からの意見及び7月31日開催の「新型コロナウイルス感染症に関する説明会（川崎市からの情報提供）・意見交換会」の内容を踏まえた加除修正を行い、最終案として改めて諮る こととしています。